



答 1校300万円の予算で3カ年間事業の1年目が終了するが、各校で知恵をしぼって特色を出しており、効果があがっている。

問 校舎の耐震化の進捗状況はどうか。また、老朽化した施設の改修計画はどうなっているか。

答 24年度までに未耐震53施設を順次改修する。各校で老朽化した校舎が多数あるので、計画的に整備していく。

消防団詰所の設置計画は

問 消防団活動に欠くことのできない詰所の早急な充実を要望する。

答 地域防災の中核と認識しており、毎年1、2箇所を目標に、優先順位に従い充実に努めたい。

設楽ダム建設に向けた本市の対応は

問 ダム建設が動き出したが、現在の状況は。

答 設楽ダムは、東三河地域と本市の長年の課題と悲願であり、市民生活を守る最重要事業と判断する。受益市町として応分の負担は当然の責務と考え、負担金の予算化がされている。

名鉄蒲郡線の存続は

問 廃線報道もされているが、存続に向けた対策をどうしているか。

答 沿線2市2町で対策協議会が設置され、必要不可欠な路線として、利用促進・経費節減等が協議されている。県の強いリーダーシップと国の参加を期待

名鉄電車



中部土地区画整理の状況と固定資産税の軽減

している。

問 21年度は予算を増額して事業推進を図るようだが、具体的にはどうか。

答 10億円以上の事業予算で推進していく。22年度以降も財源を確保して優先的に投入したい。

問 事業が長期化している中で、土地利用に制限を受ける地権者の救済は。

答 21年度からは、仮換地に移転するまでの間、土地の評価額を補正して税

の軽減を図りたい。

下水道の整備状況について

問 事業開始して30年を経過するが、今後の予定と認可区域外の整備予定はどうか。

答 大塚と形原地区が完了の完成目標に整備する。認可区域外は、財政状況と浄化センターの処理能力を考慮して検討したい。

以上を含めて24の質問

蒲郡未来の会

代表 莊田博己

税収の見通しと適正な財政規模は

問 経済情勢の急激な悪化を受け、税収の見込み額等に影響はないか。

答 法人市民税に大きな影響が生じると考え、予算を見積っているが、現時点では見込み額に大きな変

動はないと考えている。

問 起債、基金取り崩し、ボート繰入れによる予算編成をしているが、もっと減らすべきではないか。

答 21年度は新消防庁舎の建設があり、臨時的に増えている。歳入に見合った歳出が適正な予算規模と考えるので、今後も順次、事業の見直しを進めていく。

市民病院改革プランと今後の経営について

問 ボートからの繰入金金が16億円だが、これでは20年度と同様に補正が必要にならないか。

答 入院・外来収益の予算額を確保するには相当の努力が必要だと思いが、21年度は消化器内科が復活することから、収益も非常に期待できると考えている。

問 看護師確保の面から、ソフィア看護専門学校が存在をどのように評価しているか。

答 卒業生の約半数を受け入れている状況から、ソフィアの存在は非常に重要であると考えている。